

運輸交通部会長報告

会議名 秋田県建設部と運輸交通部会との意見交換会

日時 2022年7月6日（水）16：00～17：30

場所 秋田商工会議所 7階 ホール80

出席者 ◆秋田県建設部 田中部長、笠井次長、伊藤参事兼港湾空港課長、
伊勢道路課長

◆辻副会頭、正副部会長・部会員11名、水澤専務理事

内容 (1) 懇談

テーマ「秋田県内の交通インフラ整備について」

講演者 秋田県建設部 部長 田中 倫英 氏

秋田県建設部 次長 笠井 良真 氏

(2) 意見交換

テーマ「地域活性化に向けた施策展開について」

- ・ 国の公共事業関係費は、平成10年にピークの15兆円となっていたが、平成23年には5.3兆円となり、ピークの1/3という水準まで低下した。近年は当初予算として6.1兆円が計上され、補正予算として令和2年度より「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」が計上されている。
- ・ 5カ年加速化対策として取り組む対策数は、123対策・おおむね15兆円程度を目途とされている。進捗状況は約6.8兆円、全体の46%が執行されており、残りは54%。残り3カ年で単純割すると18%ずつとなり、これまでの事業速度と比較すると低下してしまう。これまでの事業速度を保つためには、予算獲得が必要となっている。
- ・ 秋田港アクセス道路は令和2年度から個別補助化され整備が進行しており、東側の田んぼ部分の用地買収は順調に進んでいる。
- ・ 国道7号の秋田南バイパスの拡幅が今年度より新規事業化された。用地買収は全て済んでおり、今後工事を進めていく予定。

- ・ 船川港では、防災・減災対策として令和2年3月に津波避難タワーを一基整備し、また別の区画にも整備を進めている。併せて、既存の船揚場を、洋上風力等の海上工事で使用される作業船の船揚場として活用するため、整備を進めている。
- ・ 能代港も基地港湾に指定され、国直轄による地耐力強化が行われており、令和5年の完成を目指し、県ではふ頭用地の造成工事を行っている。
- ・ 洋上風力発電事業が県内で活発化しており、また、風車の大型化等により部材を取扱う敷地が手狭になってきていることから、基地港湾のほかに用地が必要となっている。そこで、船川港を補完する港湾として活用するため、港湾計画の改訂を行うこととしている。
- ・ 県として重要港湾3港（秋田、船川、能代）でCNP形成計画を策定するための、補正予算が付き、今後秋田CNP協議会を立ち上げて検討を進めていく。各港で部会を設置し、連携した計画を目指し検討を進めていくこととしている。

1. 秋田空港の駐車場凍結時の安全対策について

- ・今冬は、グルーピングによる滑走防止対策を検討しており、併せて適切な融雪剤の散布を行い、凍結防止に努めていく。

2. 秋田港アクセス道路について

- ・今年度は、国道7号周辺の用地取得を進めるほか、港湾道路側の道路改良工事や県道久保秋田線を跨ぐ橋梁工事に着手する予定である。
- ・予算確保が重要となることから、商工団体としての要望を継続して
いただきたい。

3. 道路整備について

- ・秋田北ICから秋田天王線へ向かう車線の厚生医療センター交差点を過ぎたところから横山金足線交差点付近まで、コンクリート舗装で施工している途中である。次年度は、反対側車線をアスファルト舗装で施工を行う予定。2つの路線は同じくらいの交通量となるため、劣化度を比較したいと考えている。

4. 秋田港コンテナターミナル周辺の安全対策について

- ・ 臨港道路13号線・外港地区入口交差点に関して、交差点形状の変更に係る測量および予備設計を発注し、年度末までには完了するよう作業している。 予備設計では、ラウンドアバウトも含め複数案を作成・検討して、適切な交差点形状を選定することになる。
 - ラウンドアバウト設計図は良く出来ていた。ラウンド内の舗装はコンクリートで検討した方が良い。周回する際に、奥側に負荷が掛かるため、アスファルト舗装では耐えきれないと考えられる。
 - 貴重な意見として捉え、これからの詳細設計の際に、仕様の検討をさせていただく。
- ・ 県道56号線の男鹿方面に右折する交差点の信号に関して、信号機は県警所管となるため、商工会議所として働きかけを継続していただきたい。
 - 安全対策として停止線をセットバックしたが、この停止線付近もコンクリート舗装が望ましい。大型車両が2・3台と駐停車を繰り返す地点なので、是非検討していただきたい。

- ・ 県からは貴重な情報提供を受け、活発な意見交換が図られたことに感謝申しあげる。
- ・ 商工会議所として宿題を与えられた点もあると認識しているので、県との意見交換を参考に事業に取り組んでいきたい。



【開催模様】